

令和6年度 第1回 学校運営協議会議事録

日時 令和6年4月23日(火) 14:30~15:20

場所 下野市立緑小学校 会議室

参加者 田村 伸子 委員 小嶋 英史 委員 山中 英雄 委員
草川 奈津子 委員 中嶋 孝子 委員 石川 茂徳 委員 真分 喜治 委員
鈴木 寧子 校長 増淵 敦子 教頭
上野 保久 地域学校協働活動推進員

欠席者 鯉淵 礼子 教務主任 井上 啓太 地域連携教員
石崎 真清 学校教育課指導主事

1. 開会

校長あいさつ
自己紹介



2. 学校運営協議会

(1) 任命書交付

(2) 会長・副会長の選出

会長…… 真分 喜治 様
副会長… 田村 伸子 様



(3) 学校運営方針等について(説明)…司会 真分 会長

校長:→資料参照(「下野市立緑小学校グランドデザイン」(案))

○学校教育目標・具体目標・目指す学校像・目指す教職員像等について

- ・学校教育目標は、『かしこく やさしく たくましく』です。自ら考え、行動できる心豊かな子供の育成を目指しています。目指す子供像を子供の実態や各学力調査、学校評価を踏まえて、今年度は変えました。『学び合いよく考える子 明るく思いやりのある子 心身ともにたくましい子』です。
- ・目指す学校の姿は、子供が育って、教職員が協働できて、保護者や地域と連携できる学校にしていきたいと考えます。スローガンは、『つながる 1人の10歩より10人の1歩』です。みんなで手を携えて一歩ずつ進んで行こうという気持ちです。学校として、そして、教職員として、『子供がわくわく学び みんなの笑顔があふれる 教育活動の実現を目指します』
- ・このように学校教育目標から、目指す子供の姿、また、目指す学校の姿、また、私たちの教育活動の在り方を一本の軸にして捉えています。

- ・グランドデザイン(案)をご覧ください。子供たちに身に付けさせたい4つの力についてです。学校は、大きな目標とし学力を付けることが、私たちに課せられた義務でもあります。そもそも学力については、学校評価や学力調査等を分析して考えると、本校の子供たちは、4つの力を付けることで、学力が身に付いていくのではないかと考えました。1つ目の『夢を見つける力』とは、自分で夢を描くことや、夢に向かって行こうと思う気持ちが、夢を見つける力となると考えます。2つ目の『自分を見つめる力』とは、そこに対して今、どんな自分なんだろう。そして、どんな自分になりたいのだから。そういう自分自身を見つめる力と考えます。さらに、『仲間を見つめる力』とは、自分一人では、夢や目標も達成できません。自分自身も伸びていきません。仲間と協力できる力、自分の強みを集団でどう生かせるのか。また、仲間の強みをどう伸ばしていくのか。それが必要になってくると思います。そして、『学びを見つめる力』とは、今自分が学んでいる方向、努力している方向は、自分の目標に向かっているのか。自分の学びをしっかりと見つめることだと考えます。この4つの力を付けることで、子供たちに生きる力が付いていくのではないかと考えます。
 - ・子供たちの生きる力をどんなふうに伸ばしていくのか。それを考えると、その下の学校経営の基本方針に7つ示してあります。一つ目については、学校教育の大前提は、安全であること。物理的な安全、施設的な安全、心理的な安全等を含めてこれら全てが学校教育の大前提であると考えます。そこで、全教職員が、危機意識を共有し、高い危機管理体制を確立することです。二つ目は、児童一人一人を大切にするといくことです。それぞれ違いや良さがあるということを前提として、人権教育や特別支援教育の視点に立った教育活動の推進を目指したいと思います。三つ目は、子供が一人一人違うのと同じように、教職員も一人一人違います。年齢もキャリアも得意不得意も違います。一人一人の資質能力を補い、高め合いながら授業力、学級経営力の育成を図りたいと考えます。四つ目として、組織の一員として自分が学校経営に参画するという自覚をもって取り組んでいきたいと考えます。五つ目として、人との関わり合い、それは、子供たち同士、子供と職員、学校と地域、学校と家庭というように、人との関わり合いを大切にしていくことで、明るく、温かい雰囲気ができるのではないかと考えています。六つ目として、保護者や地域との連携、推進ということで、今、言われています地域とともにある学校づくりに取り組んでいきたいと考えています。そうすることで、最終的に、七つ目にあるように、本校の教育目標の『自ら考え、主体的に行動できる心豊かな子供の育成』に繋がるのではないかと考え、学校経営の基本方針を定めました。
 - ・その下に、今年度の学校経営の努力点を示しています。(1)学ぶ力を育む学業指導、(2)豊かな心を育む指導、(3)健やかな体を育む指導、(4)地域とともにある学校づくりとして、4つに分けています。
- (1)学ぶ力を育む学業指導について
- ・アからカまで示してありますが、特に今年度力を入れたいところとして、○を付けました。その中のイとカについて説明します。(イ)の聴くことを重視した学習規律の確立と聴いて考

えて表現する授業の実践についてですが、本校の児童は、表現することは比較的得意です。発表させると、とても上手に発表します。しかし、相手の発表を聴いてそれを自分に生かすことや、聴いて考えることなど、そういうところが強くなると、さらに良くなるのではないかと考えています。このことは、小中連携の小中一貫の研修の際に話題に出したところ、祇園小も第二中も同じように考えていました。これは、二中学区の課題であると考えました。小中一貫の取組でも、『聴いて考える力』を今年度のテーマにしています。そこで、本校でも、『聴いて、考えて表現する授業』の実践を、推進することを授業の柱にしています。続いて、(力)のブロックチーム制を核とした学年学級経営とブロック単位での教科担任制や学級学年指導者交流の導入についてですが、これは学校経営方針の(3)に通じるところです。本校の学校規模は、3年生と6年生が2学級、その他は、全部1学級です。全部で208名の児童数です。キャリアが浅くても経験が無くても一人で学年を任されるということがやむを得ない事実です。5クラス・6クラス規模の学校であれば、5年目、10年目の経験でも学年で、先輩の職員に教えてもらいながら経験を積むことができました。しかし、今は、2年目でも、1年目でも一人で学級経営、学年経営をしなければならないのが現状です。昨年度一年間を見てきて、一人で取り組むのは、なかなか孤独であると感じました。何とか打破しないと、若い人の教職離れが課題となっていますが、学校をあげて何とかしていかなないと考えて、このブロックチーム制を今年度から導入しました。1・2年生で一つのチーム、3・4年生で一つのチーム、5・6年生で一つのチーム、と位置付けました。保護者の皆さんにも説明をさせていただいています。学校だよりの裏面を見ていただくと、本校の職員の紹介のところで、ブロック主任という役職を今年度から明記して、保護者の方にも伝えています。このブロック主任は、1・2年生の主任ですよ。3・4年生の主任ですよ。5・6年生の主任ですよ。つまり、今年は、学年主任という言い方はしません。昨日のPTA総会の時にも、まず、ブロック別の懇談会をして進めました。今年度は、ブロックを一つのチームとして、授業もブロック間で合同で行ったり、ブロックの先生が他の学級の授業に出たり、授業者を交換したりするなど、今までの小学校の在り方とは少し違う取組をしていきます。やや中学校の発想に近いところもあります。今、小学校でも教科担任制が推進されていることも受けましてこのブロックチーム制を取り入れていきたいと考えています。そのことが、子供たちの学習意欲や、学力の向上に繋がると期待します。早速、今日、1・2年生が合同で音楽の授業を行っていました。校歌の練習をしていましたが、1年生と2年生が隣同士に座り、2年生が1年生に歌詞を指で指しながら教えてあげていました。普段は同じ学年で授業をしていることが多いですが、1年生と一緒に参加していることで、2年生が、優しく教える場面が見られました。また、一つの教室に複数の教師がいるので、役割を担って同時に指導することができ、大人の目も増え、子供たちの安心感にも繋がっていくのだと感じました。この取組が、学力の定着に繋がるかどうかということについては、一年間見ていかなければ分かりませんが、学ぶ力を育む学習指導の核として考えていきたいと思えます。

(2) 豊かな心を育む指導について

- ・(ウ)の学業指導を通じた積極的な児童指導を推進しています。学業指導とは、学びに向かう集団づくり。居心地のよい集団を作りながら、それが、学ぶ集団であり、生活する集団であると同時に、子供たちの心の安定に繋がっていくというような、児童指導の核となる考えです。学業指導については、年度当初、職員にも周知しました。どんな風に進めていくのか、今後研修を深めていきたいと思えます。

(3) 健やかな体を育む指導について

- ・(ア) 時間を守り自律した集団生活を推進しています。本校の課題として、時間を守る意識に欠けているところがあります。事故に繋がったり集団生活の乱れに繋がったりするなどが、昨年度の課題に挙がりました。まずは、日課の見直しをしました。昨年度、日課が4パターンありました。思い切って、1パターンにしました。家庭訪問等特別な時だけは、特別日課があります。基本的には、1パターンにしました。そのために犠牲にしたものもあります。特設で位置付けられていた学習の補充の時間を削りました。それを補うだけの授業の充実をしていけばよいという考えで、日課を1パターンにして、時間を守りやすいように変更しました。この対策が、良いのかは、これも1年後の学校評価で検証したいと思えます。
- ・(カ) 事故の未然防止と危険回避能力の育成です。安全が全ての第一条件です。自分の命は、自分で守る。これに関しては、昨年度から何度も子供たちに伝えてきました。保護者の皆さんにも、学校は安全を一番に大切にしているということを伝えてきました。今年度は、5月27日に、二中学区で初の試みとして「二中学区合同引き渡し訓練」を実施します。災害は、学校毎には起こりません。災害は同時に起こります。地震は学校別にも起こりません。洪水も雷雨も、ゲリラ豪雨も同時に起こるわけです。その場合、保護者の方が、どんなふうに動けばいいのか、どんなふうにお子さんを引き取って引き渡していけばいいのか、シミュレーションしていただくためにも、同時刻に災害が発生したという想定で一斉メールを同時に流して引き渡しをお願いします。そのような避難訓練を実施します。昨日、三校同時にその案内を流したところです。うまくいくのか分かりませんが、まずは実施して、危険回避能力を家庭と一緒に高めていきたいと思えます。

(4) 地域とともにある学校づくり

- ・(イ) 教育活動の積極的な公開と(エ) 保護者や地域の教育活動への理解促進と学校運営協議会や PTA との効果的な連携を強化、努力していきたいと考えています。教育活動の積極的な公開については、学校だよりや学校のホームページを見ていただけるようにしたいと思います。ホームページでは、ほぼ毎日、何か更新しています。なかなか目に付かないところではありますが、子供の姿を少しでも分かっていたいただければと思います。
- ・以上が学校経営の努力点になります。その下に、児童の実態がありますが、ご覧になってください。比較的、学力調査においては、高い正答率を残していますが、質問紙と合わせて考えると、課題もあります。
- ・最後に、目指す教職員の姿として、3つ挙げています。一つ目は、『愛情と熱意をもち子供と

ともにある教職員』です。二つ目は、『組織の中で自分を生かすことができる信頼される教職員』です。三つ目は、『教育のプロとしての自覚をもち学び続ける教職員』です。こちらについては、職員に示しながら、このような教職員集団で有り続けるように努力していきたいと思っています。

・以上が、今年度の学校経営の方針です。是非、ご意見をいただきながら、承認していただき、今年度の方向性を定めていきたいと思えます。

(4) 学校運営についての協議

草川委員：ブロックチーム制についてですが、やり方としては、音楽や、図工などで行うのですか。

校長：それだけではありません。例えば、1・2年生では、今年度同じ時間割編成にしました。全て合同で行うわけではありません。単元や内容、また、部分的に合同で進める活動等を見通して行っていきます。例えば、1年生と2年生の担任が学習によって交換して進めることも可能です。生活科などは、1・2年生が合同でできることが多い学習です。学校探検や昔の遊びなどは、一緒に学習することができます。部分的に一緒に学習したり、そういう場面を作り出したりすることができます。このことは、他の学年でも同じです。全ての授業を合同で行うとか、授業を交換して取り組むのは難しいことです。まずはできるところから始めていきたいと考えています。

中嶋委員：先程、表現するのは上手で、聴いて考えることが苦手とありましたが、二中学区では、どのような取組をするのですか。

校長：小中一貫教育が推進されています。下野市では、この研修を年間6回予定しています。二中学区（緑小・祇園小・第二中）の教職員が一堂に会して研修を行っています。各部会で研修を深めています。この研修組織の中に、学習指導部会があります。今年の研究テーマは、「聞いて考える子供の育成」を目指して取り組んでいます。具体的には、小学校では、国語を中心に進めていきます。中学校は、国語に限定せず全ての教科で取り組んでいきます。「聞き方名人」など、聞き方などを3校共通で示すことで、同一歩調で指導することができます。また、聞くスキルを身に付けるだけに終わらずに、さらに聞くだけでなく、聞いて考える時間をもたせましょう。考えるためには、考える材料を提示しましょう。というふうに、授業の内容や授業の仕方、そこまで一緒に研究を深めていくことが小中一貫の取組です。

中嶋委員：そこで話し合ったことを、各学校で実践していこうということですね。

小嶋委員：緑小の子供は、自分で話をして人に説明するのが得意なんですね。普通は人の話を聞いて、それを理解した上で、それを自分の言葉としてプレゼンするとか、説明するのだと思いますが、緑小の子は、そうではないということですね。ではその要因はどこにあるとお考えですか。

校長：自分で調べたり、それを自分で伝えたりする活動は、とても長けています。グループ活動の場面では、自分の考えを伝えるのも得意です。しかし、相手から指摘されることや、

意見されることについては、自分の事として理解したり、受け止めたりする経験が少ないのだと思います。グループ活動の場面では、一見活発に見えますが、自分の意見を言っているだけということが多いです。自分の意見を言って、そこで終わってしまいその先に繋がっていかないのが現状です。

小嶋委員：やはり、小さい頃から自分で調べて、さらに考える。その力をしっかり付けてディスカッションできる子に育ててほしいです。

校長：その部分を鍛えると伸びると思います。昨年も、先生方をお願いして、授業の中で話し合う場面を作ってもらうようにしました。授業だけでなく、学校生活の中においても、いろんな場面で、例えば異年齢集団の中で、グループを作って話し合う活動場面を作ってもらうなどして取り組むと、子供たちが変わってきました。子供たちの強みは、知的好奇心がとても高いことです。それを自分の学ぶ意欲に変えていく力があります。この地区の子供たちの強みだと思います。そこに少し負荷をかけてあげると、もっと伸びていくと思います。さらに、自己存在感や自己有用感や自分の意見が認められたとか等のいい気持ちを味わってほしいです。また、すごいね。立派だね。あるいは、感謝される。その経験が、より子供たちにとっての良い経験に繋がっていくのだと思います。

山中委員：ブロックチーム制は、思いやりの気持ちが育つと思います。下級生は上級生の話をよく聞き、そして、上級生は、下級生に優しく接するようになりますね。

田村委員：ブロックチーム制は、教職員のために取り組んでいると思いますが、それが子供たちのために還元されていると思います。相乗効果で、より良い方に学業が成り立っていくと思います。学力は、生きる力でもあります。結局は、そこに繋がっていくものだと思います。この取組は、今年度やってみてどうかということになりますが、期待ができると思います。

石川委員：我が子を見ていると、話はよくするが、一番大切なことである人の話を聞くことができていない場面が見られます。学校の中で、やっていただけるのであれば大変有り難いです。この一年の子供たちの変容が楽しみです。

上野地域学校協働活動推進員：今、皆さんの話題になっている「聴いて考えて表現する」ことに力を入れ、小学校では国語に力を入れて進めると言うことはとても大事なことだと思います。自分も、以前そういう研究をしたことがあります。まずは、人の話を聞くことができていないと、考えて自分の考えもそこに加えられないです。突き詰めると、質問する力です。相手の話をよく聞いて、考え、そして質問する力が付くと考えも深まります。さらに自分の考えに取り入れてより良いものにしていきます。今、皆さんがよく質問されていましたが、それは、よく話を聞いていたからだだと思います。質問する力が付くと目標が身近になっていくと思います。ブロックチーム制が、学習の場だけでなく活動や行事などにも繋がるようになるといいですね。また、この学校運営協議会がこの考えに加わっていけるようになると良いと思います。

(5) 学校運営について承認

※令和6年度学校運営の基本方針が、委員の総意として承認されました。

(6) その他

○今後の予定

- ・第2回学校運営協議会 ……6月26日(水)13:30~15:30
授業参観日(授業参観及び話し合い)
- ・第3回学校運営協議会 ……2月4日(火)14:00~15:00
話し合いのみ

☆二中学区学校運営協議会 ……9月26日(木)14:00~祇園小学校にて

※代表の方に参加していただく予定です。

○その他の学校行事について

- ・10月1日(火)……下野市児童表彰式(午後)
- ・11月2日(土)……運動会(午前のみ) :雨天11月3日(日)
- ・11月28日(木)……創立30周年記念式典・記念行事
- ・3月18日(火)……卒業式
- ・緑小 PTA と学校運営協議会とを結ぶ「学校連携交流会」を実施します。

※代表の方に参加していただく予定です。